

健康診断部

健康診断部の過去・現在・未来

健康診断部部长 折口 秀樹
Hideki Origuchi

昨年4月から健康診断部部长を拝命し、今までの心臓リハビリテーションでの2次予防の経験を活かして、健康管理センターでの1次予防の分野を担当することになりました。当センターは専門医による質の高い人間ドックの提供、60年以上の歴史で培った経験、多職種連携の充実、職員の健康管理状況が評価され、日本人間ドック学会の機能評価を昨年受審し、スタッフや関係部署の協力を得て同学会の認定施設に見事合格しました。



健康診断は1955年に成人病が提唱され、40～60歳に発生頻度の高い疾患（脳血管疾患・悪性腫瘍・心疾患・糖尿病・痛風）を対象に開始されました。1955年3月に旧九州厚生年金病院が開院し、同年12月には人間ドックを開始し、その様子がNHKで放送されています。1968年に成人病センターが竣工し、翌年西本名誉院長は会員制のACC（Anti-Coronary Club）を設立されました。1974年に健康診断部が創設され、1996年

には保健、栄養、運動指導が可能な保健センターが竣工しました。1997年には低年齢化・生活習慣の関与の観点から生活習慣病と命名され、2008年からの特定健診いわゆるメタボ健診に繋がっていきます。国際的には現在WHOが提唱した非感染性疾患（non-communicable diseases (NCDs)：狭義ではがん・糖尿病・循環器疾患・呼吸器疾患 広くは精神疾患、外傷を含む）として関心が高まっています。

疫学の分野でHigh Risk approachとPopulation approachをPreventive Medicineで著したGeoffrey Rose医師は「小さく地道な個々の努力が集団での大きな効果を生むという考え方が予防医学の核にある。」と述べています。健診結果を受診者自身の健康管理に活かしていくことがひいては全体の健康長寿に貢献するという考え方です。毎年健診を受けていただいているのですが、異常所見を指摘し、生活習慣の改善や医療機関への受診を促しても行動に移せない残念な受診者のかたがいらっしゃいます。これを打開する方法として特定保健指導があります。保健師や管理栄養士などの専門スタッフが健診結果に基づいて受診者と相談して目標や対策を目に見える形で決め、定期的にフォローし行動変容に結び付ける取り組みです。日本人間ドック学会の篠原理事長は現在人間ドックと特定健診の差別化が難しいと言及され、人間ドックでの保健指導の充実を提唱されています。幸いなことに当院では栄養部、リハビリ室の協力で具体的に食事、運動を指導ができますので活用していきたいと考えています。

2018年には23学会が領域を超えて協働して肥満の撲滅を目指す神戸宣言2018が発表されましたので、当センターでは新しい取り組みとしてCTによる内臓脂肪の評価を開始いたしましたのでご利用いただければ幸いです。**異所性脂肪蓄積**は内臓脂肪だけでなく、肝臓ではNAFLD/NASH、膵臓では高輝度膵としてメタボリック症候群と関連しています。心臓周囲の脂肪は冠動脈病変や心房細動を惹起いたします。減量すると異所性脂肪が最初に減少するため、食事・運動療法が有効です。そして、3~5%の減量だけで心血管疾患のリスクが低下すると報告されていますので、小さな努力が大切になります。

これからは国策として予防医学の重要性が増すと考えられています。現在ゲノム時代ですが、遺伝素因より環境因子の調整でいろいろな病気の発症を予防できることが知られています。また、神奈川県黒岩知事は**未病（ME-BYO）**を提唱し、病気を未然に防ぐことを世界的に発信しています。前立腺がん検診のガイドライン2018年版によると従来のPSA値4ng/mL以上をカットオフ値としていたものをそれ以下でも進行がんがあることから、1.0ng/mL以下では3年毎、1.1ng/mL以上では1年毎の検診を推奨しています。**Choosing Wisely**キャンペーンでも無駄な検査を避けるように提言していますが、PSA検診に伴う過剰診断によるQOL低下の不利益を避けるため、検診前・後のファクトシートの提供が推奨されています。また、**慢性腎臓病（CKD）**では動脈硬化疾患が合併しやすく、eGFRが45~59では生活習慣是正が、44以下やたんぱく尿が陽性であれば腎臓専門医受診が推奨されていますので、かかりつけ医・腎臓内科専門医と協力してフォロー体制を強化していきます。そして、高齢者ではフレイル対策が喫緊の課題で、75歳以上で保健事業・介護予防を一体化した**フレイル健診**の導入が予定されています。これに対応できるよう運動処方・栄養指導・ポリファーマシー対策を含むフレイルに特化し

た健診が提供できればと考えております。

今まで以上に個別性、アウトカムが重視される時代になっています。当センターは地域の受診者のかたの安心と安全のために活動していきたいと考えておりますので、今後ともスタッフ一同にご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

